

# 福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

## (人づくり)

- 発達障害の子どもも増えている。高等教育から一般就労に結び付けたいと考えている。今後、少子化の影響で空き教室、空き施設がでてくるので、訓練施設として活用できないか。また、子どもたちの就労に企業の方には理解を深めていただきたい。
- 健常者と障害者の共生の社会を記載してほしい。
- 先生の心・体の健康が大切。小中学校のように、高等学校にも臨床心理士や学校カウンセラーを配置し、先生の負担軽減を図ってほしい。
- 部活動の成績が上がると、勉学の成績も上がる傾向がある。部活動を通して、健全な挫折感や仲間とのコミュニケーション能力を身に付けてほしい。
- 学校は忙しい。人を育てるには人が必要。先生のゆとりを増やすため、人的支援をお願いしたい。
- 平成30年の福井国体に向けて、人材の確保が大切。スポーツ指導者、マネジメントの人材はいるが、連携ができていない。福井国体を契機に人材が残るようにしたい。
- 福井県に若者を残すよう地元の企業に就職できるよう支援している。夢あるビジョンを描いてほしい。
- 団体の会員は現在2,500人で10年前に比べて1,000人減少し、高齢化も進んでいる。会員が10人以上の団体は130（美術、音楽、歴史等）あり、今後は競争意識を持ちながら取り組む必要がある。
- 福井県立大学の県内、県外出身者は5：5である。大学と人づくりを考えると、このように大学は地域を超える場所だと考えている。また、大学では基礎教育から高等教育までを行っているが、今後はもっとキャリア教育、プレゼン能力、コミュニケーション能力を磨くことができるようにすることが重要である。このようなことから、世界に通用する人材を育成するためにも、地域を超える大学に留学生をより多く受入れ異文化に触れてほしいと考えている。  
さらに、福井県の大学は医学・工学系の実用的な学部は強いが、人文科学の学部が弱い気がする。これからの社会で情報・デザインが重要になってくるだろうし、福井の歴史・文化を伝えていく学部も必要ではないか。
- 人にも付加価値が重要。海外に飛び出すような中国語教育に力を入れていきたい。また、サマースクールとして現在10人前後が短期留学しているが、これを20人ぐらいまで増やしたい。
- 5年前に比べても子育て環境は整っていると思う。子育てを考えると、女性の再就職および親子関係の強化が大切である。親育ても大切。

- 子どものうちからの体験学習が重要と考えるが、子どもたちは土、日もスポーツ少年団等でゆとりがない。平日は帰宅しても誰もいない。土曜日も学校を利用するような仕組みはどうか。学習面で言えば、個々の児童の能力の伸ばせるよう底上げが大切である。
- 人づくりでは日銀金沢支店の統計によると、福井県出身の県外学生への仕送り等で年間200億円規模が流出している。これは一つ産業を興さないといけない規模である。宮崎県のように県外から学生が集まる学園都市を造成すべきである。
- 経営者協会ではインターンシップ事業を実施してきた。技術を教えることを通して、人を育てることを実践していきたい。
- 指導者が活動について職場からも理解を得られなくなってきている。社会教育活動に力を入れてはどうか。
- 人を責めることが上手い人が多くなっている。人を思いやる心の育成が大切。
- 中学校の人的加配をお願いしたい。
- 総合地域スポーツクラブは人づくりの受け皿の一つである。
- 食育を付け加えてほしい。
- 全体を通して、子どもの教育には家庭に問題ありとの声大きい。PTAとしても親が育たなくてはいけないとの問題意識は持っている。また、PTAとしての問題としては役員等の活動できる人が固定化されている。
- 現在は長男であっても福井に戻ってこなくてもよい意識になっている。子どもたちに「ふるさとの可能性」(子育て環境、県立高校の再編等)を発信していく必要がある。